

『海外留学体験記』(看護学科2年生:小野田結衣さん)

アデレード便り(2)

「国境を越えて仲間と共に学び合う喜びを知る」(2018年9月)



私のアデレード便りの2回目は、主に英語の授業の様子についてご紹介します。

大学では平日の5日間、毎日4時間ずつ英語の授業が行われます。4時間と聞くと長いと感じる方もいるかもしれませんが、受けてみるととても楽しいので、本当にあっという間に終わります。こちらの授業は日本の講義と少し異なり、学生自身の積極性を活かした内容となっています。日本では学生が先生の講義を静かに聴くという形が一般的ですが、こちらでは、先生が簡単にテーマの紹介をしながら『〇〇ってみんなにとってどういうイメージ?』とクラス全体に問いかけ、それに対し学生が自由気ままに意見を発信しつつ授業が進んでいきます。クラスには様々な国から来た学生がいるので、価値観の違いから非常に興味深い意見が聞けたりします。例えば、私のグループには、私のほかに中国の学生とサウジアラビアの学生がいました。ある日のテーマは『資源と環境』。石油産出国であることを強みとしたサウジアラビア、目覚ましい発展を築きつつある一方で空気汚染が課題の中国、資源に十分恵まれているとは言い難くも高い技術を持ち先進国である日本。3つの視点から思い思いにテーマを分析します。ちょうど自動車について話すことがあり、春にサウジアラビアで女性の運転が認められたことも話題にあがりました。国境を越えた地球規模の会話をする上で、普段からニュースや新聞を読み、国内だけでなく世界に目を向けることが大切だと実感しました。このように、クラスでは全体の価値観やイメージの違いに興味を持ちつつ、その日与えられたテーマについて皆で学びを深めていきます。初めは緊張するかもしれませんが、実際クラスの雰囲気は堅苦しいものではなく、とてもリラックスした空間です。

授業で得られるものは、主に『簡潔に自分の意見を伝える力』、『仲間と共にそれぞれの固定概念を超え、他の地域の価値観や宗教上の違いを理解した上で、幅広い視野でテーマを見つめる力』、『根拠を踏まえ例を挙げつつ、順序だてて相手を納得させる力』です。どれも様々な国から来ている互いの母国語が通じない留学生同士が、英語圏で切磋琢磨し合うことで得られる、貴重な力です。英語でしかコミュニケーションが取れないので、皆いかに相手へ自分の意見を正確に簡潔に伝えるかを、いつも一生懸命考えます。そのことが日を追うごとに、英語の力が付くことに繋がるのです。授業内で私が学んだ姿勢は、文法のミスが怖がる前に自分の意見を相手へ伝えること、そして伝えること自体を重要視することです。正しい英語を話すことももちろん大切ですが、コミュニケーションの目的は相手に伝えることです。ミスはあれ、まずは大きな声ではっきりと、伝えようとする姿勢を見せることが大切だと学びました。日本で重視される『静かに相手の意見や話をよく聞く』というのも勿論大切ですが、それだけではなく、それを踏まえて自分の意見も発信できることが世界では大切なのではないのでしょうか。なぜなら、発信し合うことで互いの価値観をより深く知ることができ、お互いを理解し尊重することで相手を大切に想うことが出来るからです。

アデレードは自然豊かで食べ物もおいしく、のびのびと語学を学ぶにはとてもいい場所だと、私は自身の体験をもって言えます。挨拶の基本が握手とハグであるように、オーストラリアはとても陽気で気さくな国なので、人の優しい温もりが直に感じられるあたたかい地域です。たとえば私も初対面の方とハグし合ったり、バス停やスーパーで談笑したりする機会が何度もありました。通学路で洗車をしているおじさんとふと目が合った時は、お互い片手をあげて、陽気に『G' day!』と笑顔で言い交したりしました。

この地で大学に通い、町に出向き、様々な人と価値観に出会うことで、持っている固定概念を覆し、様々な仲間の価値観を受け入れながら物事を考えられるようになります。これは、これからのグローバル社会を生きる私たちに必要な考え方ではないでしょうか。アデレードは、自然に囲まれながら自分に挑戦できる最高の場所です。ぜひこのアデレードで未知に出会い、喜びを感じ、自分の視野や価値観を広げて、自分の新しい地平線を切り拓いて頂けたらと願います。